

千葉大学医学部附属病院 初期臨床研修医対象

「精神科コース」に参加希望される方へ

<案内・募集要項>

2019年3月
千葉大学医学部附属病院
精神科コース事務局

●精神科コースの目的

初期臨床研修の期間、精神医学の広い知識と技術を身につけ、**将来何科の医師となっても基本的な精神科診療が行えるようになること**を目的とします。特に精神科医・児童精神科医となることを志す医師は将来のキャリアを見据え、精神医学の広がりとしら楽しさを実感できることを目指します。

●精神科コースの注意点

本コースに参加することが、当科専門研修プログラムへの参加を義務づけるものではありません。また初期臨床研修期間中も当科での選択研修は必須でなく、コースの退会も自由です。当コースに参加しても、自分のキャリアの可能性が狭まることは一切ありません。

●募集要項

応募資格：千葉大学医学部附属病院 初期臨床研修プログラム参加者・参加内定者

(医学部6年生・既卒問わず)

募集期間：2019年10月1日～**2020年3月末**

定員：5～10名程度

コース期間：希望に応じ初期研修の全期間（最大 24 か月）まで参加可能です

●精神科コースの位置づけ

参考「平成 31（2019）年度 千葉大学医学部附属病院 研修医募集 HP より」

■認定内科医・専門医コース、外科専門医コース、精神科コース
専門研修の早期開始と充実のため、専門重点、学究重点プログラムの
オプションとして認定内科医・専門医コース、外科専門医コース、精
神科コースを設定した。各プログラムマッチ後にコースを選択できる。

→オプション・コースであり、千葉大学病院の研修医であれば自由に参加できます

※在籍者（過去含）は以下の先生方です。

※氏名・卒業大学・現在の所属（初期臨床研修医のみ）

<第 1 期生：2014 年 4 月開始～2016 年 3 月修了>

★大迫鑑顕先生：千葉大

★吉崎智子先生：富山大

★鈴木陽大先生：千葉大

★鈴木耕輔先生：千葉大

★桶谷優先生：宮崎大

<第 2 期生：2015 年 4 月開始～2017 年 3 月修了>

★岡田和樹先生：千葉大

★佐脇麻里亜先生：千葉大

★片山千尋先生：山形大

★篠田菜々先生：山形大

★須藤佑輔先生：滋賀医大

★小川梓先生：金沢医大

★大木望先生：藤田保健衛生大学

★阿久津実彩先生：杏林大学

★木下大輔先生：千葉大学

<第3期生：2016年4月開始～2018年3月修了>

★小林玲美子先生：浜松医科大

★林瑶子先生：宮崎大

★本田有正先生：岩手医大

★早津龍之介先生：高知大学

<第4期生：2017年4月開始～2019年3月修了予定>

★川口恭央先生：熊本大学

★矢野郁明先生：浜松医科大学

★伊藤愛先生：新潟大学

★大町まどか先生：信州大学

★小林宏子先生：北里大学

★蜂須賀陸先生：産業医科大学

★齋藤武先生：千葉大学

<第5期生：2018年4月開始～2020年3月修了予定>

★田村弘樹先生：日本医科大学

★齋藤有紀先生：千葉大学

★高野沙唯先生：千葉大学

★赤塚鉄平先生：杏林大学

★永野顕信先生：東邦大学

<第6期生：2019年4月開始（予定）>

★小池翠先生：日本医科大学

★矢賀勇志先生：信州大学

●精神科コース参加者への8つのメリット！

①精神科チューター制度

精神科コース参加者に対し、責任を持って勉強のアドバイスを行い、人的つながりを提供するチューターを配置します。SNSの専用ページなどを活用し、みなさんに有用な情報を共有します。

<精神科チューターの顔ぶれ；今後も増員予定です>

★鎌田雄（平成19年 千葉大卒）：精神科コース事務局

現職：千葉大学医学部附属病院 総合医療教育研修センター 特任助教

資格：精神保健指定医、精神神経学会専門医・指導医、産業医

関心領域:リエゾン・コンサルテーション精神医学、精神科救急、医学教育

参加者に一言:精神科医として働いていると、我々は「病気」ではなく、病気である「人」をみていることを思い知らされます。まさに十人十色である「人」を理解し寄り添っていけるような経験、スキルを共有できれば良いなと思います。

★吉村健佑（平成 19 年 千葉大卒）

現職：千葉大学医学部附属病院 病院経営管理学研究センター 特任講師 / 産業医

千葉県 医療整備課 医師確保・地域医療推進室 キャリアコーディネータ

学位：公衆衛生学修士（M.P.H.）、医学博士（Ph.D.）

資格：精神保健指定医、精神科専門医・指導医、労働衛生コンサルタント、産業医

関心領域：産業精神医学、病院経営管理学、医療情報学、医療政策学。

参加者に一言：精神医学の知識と技術を身に着けることは、人生必須のサバイバルスキルです。ましてや臨床医にとっては何科においても避けて通ることはできません。さらに精神医学は地域保健学・産業医学・臨床心理学とも密接し、健康行動学的観点から医療政策・医療経済分野においても注目されています。現在も精神医学の関連領域は拡大し続けているのです。参加者の興味・関心に合わせ、情報提供できれば良いかと思います。これまで多くの参加者を得て、大好評の本コースに是非ご参加ください！

★中川萌以（平成 22 年 千葉大卒）

現職：袖ヶ浦さつき台病院 精神科

関心領域：精神療法

参加者に一言：精神科医になって 3 年目の中川です。千葉県で育った私は、高校生の頃「精神科医になりたい」と思いました。千葉県は温暖な気候で、都市部と農村と美しい海があり、美味しい野菜や魚がいっぱいの素晴らしい土地です。しかし人口過密地帯と過疎地とを抱え、医師不足に悩んでいます。卒後は現・国立国際医療センター国府台病院で初期研修をし、「育った千葉県で精神科医療に関わりたい！」と思い千葉県内で医療をしています。精神科には精神療法など、他の診療科にない独特の手法に興味があります。一緒に楽しく学んで、楽しく飲みましょう！

★大迫鑑顕先生（平成 26 年 千葉大卒）

現職：袖ヶ浦さつき台病院 心療内科・精神科 医員

千葉大学大学院医学研究院 精神医学 特任研究員

関心領域：児童・青年期精神医学、リエゾン・コンサルテーション精神医学、診断学

参加者に一言：精神科領域の疾患は、他の領域の疾患と比較して症状評価や診断が分かりにくい領域です。だからこそ、これまでの自分の経験が活かしやすい領域かと思えますし、同僚と切磋琢磨できる機会の多い精神科コースに入る事はとても良いチャンスかと思えます。特に千葉大学精神科は、出身地、出身大学なども多様な医局ですので、ぜひ飛び込んできてほしいです。ともに働ける日を楽しみにしています。

★鈴木耕輔先生(平成 26 年 千葉大卒)

現職：学会会 木村病院

関心領域：精神薬理学、リエゾン精神医学、精神科救急、社会精神医学、産業精神医学

参加者に一言：精神科は他科と比較するとまだまだ未熟な学問・医療です。それだけに今後、何十年と続く医師人生で、劇的な進歩を遂げると確信しています。日々、知的好奇心を刺激され、楽しみながら、悩みながら、一緒に私たちと学びませんか。コース参加をお待ちしております。

★岡田和樹先生(平成 27 年 千葉大卒)

現職：総合病院国保旭中央病院 神経精神科 医員

関心領域：その時々でかわる(最近のマイブームは依存症)

参加者に一言：教科書・ガイドラインを読むのは大事。でもどんなに真面目に読んでもよくわからない！

臨床医学ってそんなかんじだと思いますが、精神科はその側面が特に大きいのではと思います。結局は現場で体感しつつ、上の先生に聞きつつ、それでもよくわからなくて、わからないなりに患者さんと向き合う中で何かをつかむしかないのでしょうか(私はまだ大してつかめた気がしていませんが)。みなさんと一緒にいろいろ体験し、一緒になにかつかめたらいいなと思います。偉そうなことを言いましたが、要するに飲み会があったら呼んでください。

★須藤佑輔先生（平成 27 年 滋賀医大卒）

現職：木更津病院 精神科

関心領域：双極性障害、認知行動療法

参加者に一言：精神科は他科以上に、一人一人の患者さんやご家族と「向き合う」ことが求められる診療科だと思います。また看護師やソーシャルワーカーといった院内の関係者はもちろん、市役所、介護・福祉施設、児童相談所、警察など、院外の様々な職種の方々とも協働することが不可欠です。そういったことに面白さややりがいを感じられそうな方には、是非仲間になっていただきたいですし、現段階で「面倒だな」と感じている方にも、精神科コースでの関わりを通じて「意外と悪くないかも」と思っていただきたいと思っています。見かけたらお気軽に声をかけてください。

★篠田菜々先生（平成27年 山形大卒）

現職：千葉市立青葉病院 精神科

関心領域：今はとりあえず目の前にあるものすべて

参加者に一言：出身地でも出身大学でもない千葉で、精神科の道に進むと決めたのは、精神科コースの同期や先輩方の非常にサポート的な雰囲気があったこそ、と思います。勉強のことももちろんですが、進路の相談等もお気軽にご相談いただけたらと思います。私自身もまだまだ未熟ですが、これから一緒に学んで成長していけることを楽しみにしています。

②初期研修中に身につけるべき基本技術を提示します

各科ローテーション中に何を勉強すべきか、次のような疑問点にチューターが具体的にアドバイスします。

<内科>

ステロイド治療・インターフェロンと精神症状の関連と評価方法は？

アルコール関連疾患と依存症からの脱出方法は？

精神科医として必要な内科的検査、手技の範囲は？

終末期医療現場での精神症状の評価と治療は？

精神科医としてイレウスの評価や糖尿病の管理はどの程度必要か？

<外科>

管理に手を焼く術後せん妄の予防・評価・治療方法は？

精神科医になる場合、外科で何を学ぶべきか？

<整形外科>

慢性疼痛の患者に対する精神医学的評価はどうしたら？

<産婦人科>

周産期管理、女性のホルモンバランスと精神症状の関連は？

<救急部>

自殺未遂した患者の再企図可能性をどのように評価する？

精神症状と身体症状が併存した場合どうすれば？

頭部外傷後の患者が起こしやすい精神症状と管理方法は？

③千葉大学プログラムの研修協力病院の選択に際してアドバイス・情報提供します

- ・具体的な研修内容や利点や欠点については精神科コース担当者までお問い合わせ下さい。丁寧に
お教えいたします。

④精神保健指定医・精神科専門医資格の取得をお手伝いいたします

<精神保健指定医制度>

- ・資格制度の概要をお伝えし、研修の進め方、レポート作成の方策をアドバイスします。
- ・初期臨床研修 2 年目の「選択期間」において 3 か月以上の当科での研修を行うことで、症例として確保することができます。

<日本精神神経学会認定 精神科専門医>

- ・精神科専門医試験の近年の傾向を知ることができ、参考図書もお伝えします。スムーズに勉強開始ができます。

⑤日本精神神経学会の年間費（1.5 万円/年）を最大 2 年間、精神科コースが負担します

- ・研修開始と同時に入会し、会報を通じて勉強できます。

⑥国内主要関連学会へ参加費用・旅費を精神科コースが負担します

- ・年に 1 度、日本精神神経学会などの大きな学会に参加します。
- ・学会での積極的な登壇、発表にチャレンジしてみましよう！チューターも応援します。

⑦当コースの推奨する精神科関連図書を進呈します

- ・主に千葉大学精神医学教室が関係して執筆された参考書などを進呈します。
- ・図書カードを進呈し、自分の興味関心に合わせて図書を購入することができます。

⑧定期的に教室例会、精神科関連研究会に参加できます

- ・研修医向け、シニアレジデント向けのレクチャーの案内をいたします。
- ・年に2-3回開催している人気企画「千葉若手精神科医の会」への参加機会を提供します。

●精神科コース参加者の年間スケジュール予定（2019年度）

2019年	
4月	精神科コースの開始・メンバー紹介
5月	日本精神神経学会への入会手続き（費用は当方で負担）
6月1日	「千葉大学精神科緊急対応研修会」参加
6月20-22日	「日本精神神経学会学術総会@新潟」参加
7月頃	「千葉若手精神科医の会①」参加
7月上旬	医局説明会にて精神科コースの説明実施
7月下旬	「千葉大学精神医学・夏の教室例会」参加
10月頃	「千葉若手精神科医の会②」参加
11月1日～	第5期生 参加者の募集開始
12月	2019年末・精神科コース忘年会開催
2020年	
1月	「千葉大学精神医学・冬の教室例会」参加

2月頃	「千葉若手精神科医の会③」参加
3月	「年度末ミーティング・修了式」開催

●精神科コースの今後

本コースは2014年4月から本格稼働しています。

1期～3期生として18名が修了しています。現在、4期生の7名、5期生の5名が学んでおります。

今後も参加者を増やし切磋琢磨できる若手集団を形成したいと思います。

みなさんぜひとも千葉大学病院での初期臨床研修をご検討ください。精神科コースでたっぷり、しっかり学

びましょう！参加希望者は下記にメールをください。お待ちしております。

連絡先：千葉大学医学部附属病院精神神経科
「精神科コース」担当

石川雅智（医局長）：m-ishikawa@faculty.chiba-u.jp

長谷川直（副医局長）：hase.falcon@hotmail.co.jp

新津富央（副医局長）：niitsu@chiba-u.jp

鎌田雄（事務局）：yukamata@chiba-u.jp

吉村健佑：kensuke0511@gmail.com